



源氏物語

皇一四六
W
913.361
G
0

源氏物語之板

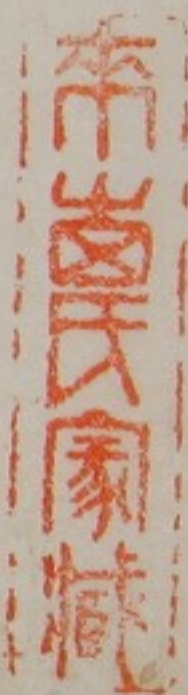
913.36
9.

60221





素
稗叙也 伊行ノ法名也



一水邊 作者

大監物源光行 河内守也

一河海 作者

松岩寺九大臣善成公 法名 常勝

一花鳥 作者

一條大閻重良公法名實惠

一奥入 作者

伊行 定家卿ノ王所也

一源注最秘抄

同伊行作

一晴花 作者

肖拍 尊無記

一葉 作者

肖拍 三條殿

一細流 作者

紹也

一長露 作者

紹也

源氏物語本不同、草書中書

可有差及、限書表裏河内守

流之由知也、後成心父子、中

經有是之

黃表裏 後房心本也

師 後房 母入石大政大臣長女

定家河内守、自守之書表裏

中以以能乃為、かろり、事、心

河内守之、行 清和天皇十代、苗裔

源氏物語、元系、之、あそ、之、れ、

之、河内守、之、世、乃、三、以、あ、之、

やう耕雲 院 河内中と伝

しとふり 子孫 河内中と伝

中と用抄 源 河内中と伝

抄済述 源 河内中と伝

右大臣 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 源 河内中と伝

源氏物語 女中の作也
 家祇法所定事の中の
 流し舟の思の志の人の良の
 二の人のよのひて青の表の時
 傳授して得た不富一條
 大園所の不さとちて三條西殿
の内行道道院 傳天一さのとのとも
 禁中のふの事の道院殿の
 為したれと是 称名院殿
 右の道院殿の二男所見の女也
 夫の二男と所相續也
 道院殿の也と是の也と也

古来よりいれる義理の礼明
 名の也佛教の儒の和漢道
 道院殿の也と是の也と也
 紹也称名院殿の也也と也

○化意者

大琳院蓮子村の女十文田鞆院 六代
 所望上女の院 一條院名南堂殿の女
の子文と夕見ルらしとカリケル上東
門院の内娘の文夕子の也 所望殿の
 所望殿の也と也
 是の時に京式部の化意と云
 是の用意平信石山寺持

趣向し申見し河原抄け事
 初し抄しと八月十六日
 湖水よりつておすこわら
 物語の風情定まりしころ
 三つぬあしめくそは前大般若
 と龍と先皇の巻し
 書しころは是れはしころは
 巻にこよひの十五夜から
 とたしめくころはは
 の書しころは是れはしころは
 け京式部旧前の正朝田の書

京抄ノ西頼東山院ノ白也
 けと云字ハ京式部ノ書
 出言ナクハ是れは京式部
 ておしめくころはは
 一部のうちハ京式部ノ書
 書故ノ名もは京式部
 一條院の白也と云と云
 山院の白也と云と云
 京式部ハ京式部ノ書
 京式部ハ京式部ノ書
 京式部ハ京式部ノ書
 京式部ハ京式部ノ書

又損ホス莊子シヤウ寓言イ云ク

△南溟有魚イ其名曰鯨クワ鯨クワ鯨クワ

鯨クワ鯨クワ鯨クワ搏ハク九万里コト

莊子逍遙シヤウ極クワ為牛ウシ一コト周シユ

胡蝶カ夢カ成周シユ也ナリ

ト云ク寓カ報カ十カ卷カ讀カ

け物語カ少カ又カ報カありカ

うカとカすカとカすカ

うカとカすカとカすカ

更カ有一カ字カ磨カ貝カ明カ感カ者カ必カ衰カ

ト云ク寓カ報カ十カ卷カ讀カ

今者定離ノ理ヲ

人ヲ媿欲カ心カ深カ放カ是カ好カ良カ

事カヲ書カ初カ人カ道カハカハカ

とカ是カ奇カ道カハカ古今カハカ人カ其カ言カ

即カ子カカカ物カ邪カ道カハカ入カるカ不カ

得カとカハカ石カ下カ見カ云カ莊カ子カ

公カ同カしカ佛カ教カ也カ小カ乘カハカ

大カ乘カハカハカハカハカハカ

三カ節カ經カ仁カ王カ經カをカ也カ水カ文カ

見カてカハカ無カりカ入カるカもカ可カ見カ

九傳 **勸善懲惡** 徵の口ストヨム
勸善懲惡 乃玄コラス心

け物語は好交のそあをみ
ぬぬたのそ後代にそ世治ぬ
ひひて名のけぬそ所へひ
源氏大意勸善懲悪く在り
い事しあくとしてい事
むいそ也湯治の昔の
いそくも事しあくとして
人の子言すすい公はる
事よかろ也

時代寛弘初造也
寛弘一惟隆年号康和源河院寛弘元康和元延九十
六年也

布す村大條三品系極黃門ノ
比貴教之堤寛弘後の十
年延四百八十餘年也延文の

永保六年延九十八年也
延文六年延九十八年也
天正六年延九十八年也
元延六年延九十八年也
右寛弘元甲辰
多可寛弘元
甲子延和六年
百廿餘年成也

延号全篇 从光源氏より為
右号源氏

源氏姓ハ始テ流儀所子伝云
流儀天皇男女又十餘人所

子ヲ持給世人斗、計世が
治ト云

源字ハ盤觴小為九河之
源、義祝而用也、古本序
山下多の絶を云々、
計物語又合之、仍還也
握疑不給也、又水原有邊
一説、淡江初、盤觴入楚乃
云、
醜禰 朱雀 村上 三代 准
丁、醜禰 朱雀 村上

五十九 六十一 六十二
宇多 醍醐 朱雀 村上

冷泉トありき、村上の子
ハ公天台、心

桐在壺帝、准醍醐天王、下

見、河海抄、貴程代、九、

為家初、光源中、唯、西、

交、方、符、
異朝、周、
在中、
一、
源、
未、

倫、木、
仁、明、
女、
羽、林、

不、換、

源、
未、

源、
未、

未、

松用至
東方近

似乎 重世私勘中園白道隆二男左近殿弟之俊賜
後月三司官帥内右大臣伊周公階上りり母
葉達上り又太宰府へ遷居也

周不之 白居易 漢、夕

伊周云ト云ハ中朝最原氏

古来称為 人ヲホムル心

古人若不可親之

吹法院清光二年久一切物語

多或有事或詭ト伊集

物語ハ詞指トる事ト志

上ヨリ下ニテ時務ト大和宮下

ト云ル事亦無何ト物語畫

不買安之論ト故又

源氏物語不了説物是文也

信人ト不為ト果或新書ト始

下條院有清説不可説物ト

或説ハ目年紀トトクク已

ト云ル事ト在信ト時在清門

内傳始ト傷云目年紀ト云

同清紀我國ト至宝源氏

物語ト云ト人ト云ト是

後成ト六百番判詞源氏ト云

予よりの長少の長下云々
人毎に出發好交の事と見侍り
つらゝのる書らるるを
御所共の事からる事
公に付ら下り也

定家公末談ノ説別記

鴨長の長少抄云々をこの
源中作らる事と見侍り
し世にあらる事と見侍り
海に公の事と見侍り
もやと見侍り

後の物語、家合の事と見侍り
ぬり事と見侍り

源中、^私信吉物語事と見侍り
く細と結也云々信吉物語ノ
作者不知了る

石丁説、云々、亦と云公

相在

凡巻ノ有、^私意唯天台ノ端
法門一ノ詞、^私二ノ詞、^私三ノ詞
より三ノ詞ト云ト云
と云云ノ一ノ詞ト云

さき事の名トセリ

一、有門二、空門三、示

有示空門四、此有此空門

一切言語ハ此以諦ニカス是

ハ故以諦ニカス之性トモ

尺寸有定、道理ハ言教

外テ有定、或説云一教

ト作意以天台以諦ハ法門云

卷名相查、文意相ハ相查

五舎ノ一ハ

梨子舎昭陽舎相查浄京舎

飛香舎数花舎相查龍芳舎

若舎けみ舎相查

源中、若生、生、十二才、迄

事あり、若の末の詞、たか

は成、然して、後とあり、と、家

の巻、十六才、ある巻、と、い、

け、あ、ら、ひ、お、ら、ま、か、ら





